

平成27年度 宇都宮大学 全学FDの日

1. 日 時 平成27年9月28日（月）9時から
2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール
（工学部アカデミアホールに映像・音声配信）
3. テーマ 教育の質保証と学事日程
～クォーター制の導入や授業時間の変更など～
4. 日 程
【表彰】
9:00 ベストレクチャー賞表彰及び受賞者による授業実践の紹介

【全学FDシンポジウム】
10:30 挨拶（学長 石田朋靖）
10:40 講演「東京外国語大学における学時暦の見直しについて」
（東京外国語大学理事・副学長（総括、教育等担当）
大学院総合国際学研究院教授 林 佳世子 氏）
11:25 講演「教育改新、学びの強化」
（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
学長補佐（大学改革担当）
高等教育開発推進機構副機構長 松川 昭博 氏）
12:10 質疑応答
12:30 終了（予定）

（参考：各学部の取組）
14:00～15:30 個別FD活動
国際学部：峰町5号館A棟4階 大会議室
教育学部：峰町8号館E棟1階 8E11 教室
工 学 部：アカデミアホール
農 学 部：峰ヶ丘講堂

目 次

| | |
|--|---|
| 第 12 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿・・・・・・・・・・ | 1 |
| 第 12 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項・・・・・・・・・・ | 2 |
| 講演「東京外国語大学における学時暦の見直しについて」 （東京外国語大学理事・副学長（総括、教育等担当） 大学院総合国際学研究院教授 林 佳世子 氏）・・・・・・・・・・ | 3 |
| 講演「教育改新、学びの強化」 （岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 学長補佐（大学改革担当） 高等教育開発推進機構副機構長 松川 昭博 氏）・・・・・・・・・・ | 9 |

※第 12 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者による授業実践の紹介
資料は別添にてご用意しております。

第12回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿

| 学部等名 | 授業科目名 | 担当教員名 | 備考 |
|------|-------------------|--------|--------------------|
| 国際学部 | 国際関係論 | 清水 奈名子 | 表彰式(全学FDの日)における発表者 |
| 教育学部 | 重複障害児教育概論 | 岡澤 慎一 | 表彰式(全学FDの日)における発表者 |
| | 発達心理学 | 石川 隆行 | |
| | 食物科学 | 大森 玲子 | |
| 工学部 | 生産システム工学 | 星野 智史 | |
| | コンクリート工学 I | 藤原 浩己 | |
| | 流域環境学 I | 池田 裕一 | 表彰式(全学FDの日)における発表者 |
| 農学部 | 基礎有機化学 | 謝 肖男 | 表彰式(全学FDの日)における発表者 |
| | 生物化学 I 生物化学 II | 蕪山 由己人 | |
| 基盤教育 | 新入生セミナー | 陣内 雄次 | 表彰式(全学FDの日)における発表者 |
| | 新入生セミナー | 松金 公正 | |
| | 朝鮮語基礎IV | 丁 貴連 | |
| | 電気電子数学入門 | 東 剛人 | |

第12回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項

平成27年5月27日 教育企画会議

本学では、基本的な教育目標として「広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。」を掲げている。

この教育目標を達成するための一環として、優れた講義を行っている教員にベストレクチャー賞を授与し、併せて、教員相互の授業改善の意識向上に役立てることを意図している。

なお、ベストレクチャー賞は、優れた授業への取組みであることに鑑み、本学における志願者確保等の観点から、その取組内容を広報活動においても活用することとする。

以下に「第12回宇都宮大学ベストレクチャー賞」の選考について必要事項を定める。

1. 対象は、専任教員が担当する学士課程のすべての授業科目（以下「科目」という。）とし、当該科目を複数で担当している場合は、その代表者とする。
2. ベストレクチャー賞の選考は、平成26年度前期及び後期の「授業評価アンケート」を参考に、教育企画会議において決定する。
 - ①国際学部、教育学部、工学部、農学部の専門教育科目担当者及び基盤教育科目担当者から選出する。候補者数は開講科目数を勘案し、基盤教育4名、国際学部1名、教育学部3名、工学部3名、農学部2名とする。
 - ②「授業評価アンケート」の回答者数が10名以上の科目を対象とする。
 - ③授業評価項目4から9の平均点は、概ね4.0以上とする。
 - ④その他、選考内容・方法は教育企画会議が定める。
3. ベストレクチャー賞受賞者には、「全学FDの日」において学長から表彰状、副賞及び教員研究費10万円を授与する。
4. ベストレクチャー賞受賞者の取組内容については、他の教員の授業改善の意識向上に役立てること、さらには広報活動に活用するため、以下の事項について考慮する。
 - (1) 受賞者は授業に対する心構えや取り組み方などをまとめた資料「授業概要」を作成し、「全学FDの日」において15分程度の発表を行う。
 - (2) 「授業概要」を学内向けHPに公開するとともに、オープンキャンパスの日などに模擬講義を実施する。
 - (3) 受賞者の模擬講義（10分～15分程度）をビデオ収録し、これを蓄積したものを本学HP等に公開する。



東京外国語大学における 学時暦の見直しについて

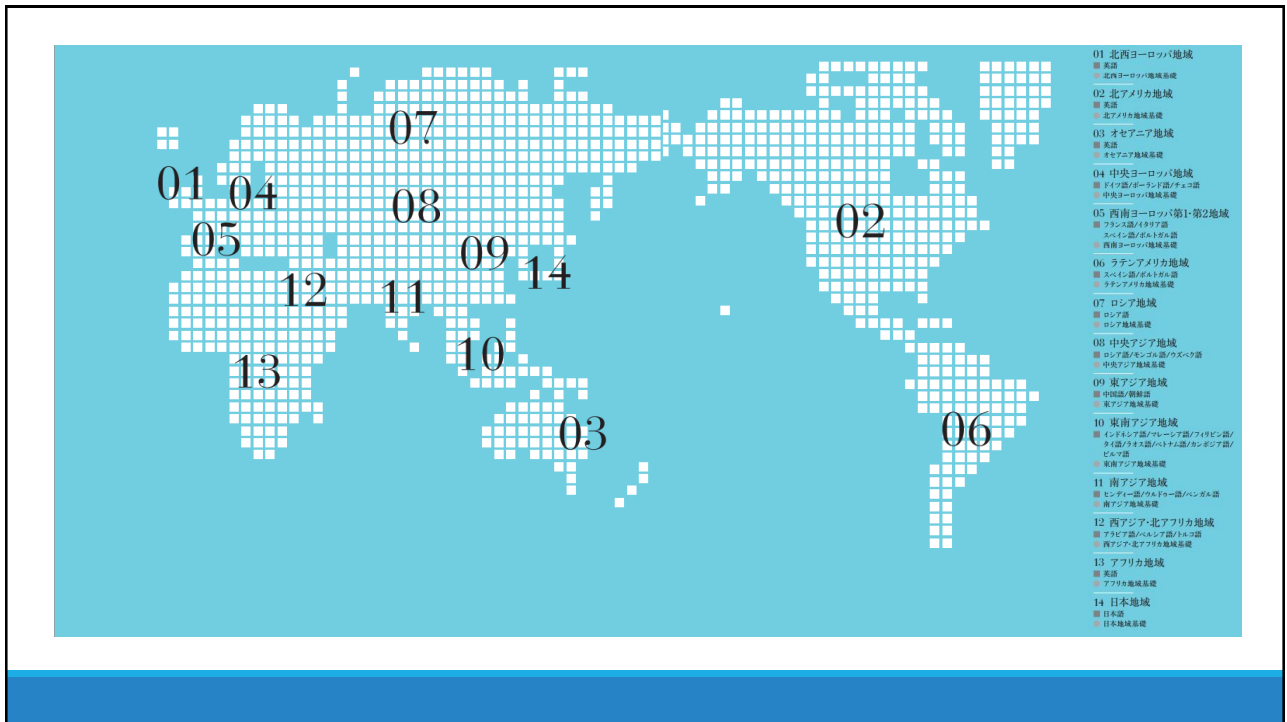
林佳世子

(東京外国語大学)



東京外国語大学、という大学

- ① 人文社会系「単科」大学
共通の教養教育課程をもつ2学部、1研究科
- ② 27の専攻言語教育が教育の中核
世界の言語・文化・社会に関する総合的研究・教育
- ③ 学生数
学部 3600人
大学院 400人
- ④ 教員数 210人



課題と対応

- 課題 ① 留学の促進と、留学を理由にした休学への対応
 ② 初修言語の語学教育体制の改善
 ③ アクティブラーニング手法の導入

対応

| | |
|----------|--|
| 2013.4.1 | 大学設置基準の一部を改正する省令、施行 |
| 2013.5～ | 学長室教育改革部会にて課題解決に役立つ学時暦の見直し 他大事例研究(ICU、東大、慶応大、早稲田大、高知工大など) |
| 2014.5 | TUFSクォーター制の導入を決定 |
| 2014.7 | 夏期ショートビジット(短期海外留学制度を先行、実施) 約204名参加 |
| 2015.4 | TUFSクォーター制導入 |



TUFSクォーター制(2015)

春学期 4月1日～7月11日

夏学期 7月12日～9月30日

秋学期 10月1日～1月23日

冬学期 1月24日～3月31日

 春・秋学期： 従来型の実習 & 講義授業(13+2型)

夏・冬学期： 短期海外留学、フィールド型授業、集中講義(15)



検討した課題

教務上の諸課題

- 春学期・秋学期の休日授業等への対応
- 履修制限規定の見直し
- 教務日程の見直し(履修登録、履修取り消し期間、成績判定など)
- 学務情報システムの改変

教育内容に係る課題

- 夏学期・冬学期の集中講義の企画と、その充実対策
- 夏学期・冬学期の短期海外留学先の整備と留学支援体制の構築
- アクティブラーニング手法の導入と e-Learning システム活用

その他の課題

- 非常勤講師担当授業への対応
- 授業料等の設定



実施状況(春学期)

- 13回+2 の授業実施
- アクティブラーニング実施アンケート
- 改善にむけての、教員アンケート



実施状況(夏学期)

- | | |
|---|---|
| <p>①夏期短期海外留学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界各地へ79プログラム。参加者数327名。 <p>②海外の協定校との連携による、Joint Education Program</p> <ul style="list-style-type: none"> ○台湾師範大、ヤンゴン大、リール第三大 ○平和構築紛争予防連携授業(カンボジア:パニャサストラ大、インド:ムンバイ大・イスラム工科大学、インドネシア:ガジャマダ大学、パキスタン:カイデアザム大学、パキスタン:アザッド・ジャンム・アンド・カシミール大学、スリランカ:ペラデニア大学) <p>③サマープログラム参加の留学生と学ぶ多文化交流実践</p> | <p>④教養・専門科目(集中講義)</p> <p>⑤キャリアデザイン科目—公務員試験対策科目など</p> <p>⑥サマー・インテンシブ・イングリッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○TOEIC点数別クラス編成 <p>⑦新たな言語を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オランダ語、サンスクリット語、グルジア語 ○日本手話、アラビア語パレスチナ方言 ○古ジャワ語、ハウサ語 <p style="text-align: right;">合計、1568名が履修登録</p> |
|---|---|



検討課題

- ① 夏学期科目・冬学期科目のさらなる充実
- ② アクティブラーニングの充実、手法研究
- ③ 教育成果の検証
- ④ 留学する学生への危機管理体制の充実
- ⑤ 他大学の学時暦との調整

教育改革、学びの強化

宇都宮大学 全学FDの日 平成27年9月28日



国立大学法人岡山大学
学長補佐（大学改革担当）
高等教育開発推進機構・副機構長
松川 昭博

Build & Renovate

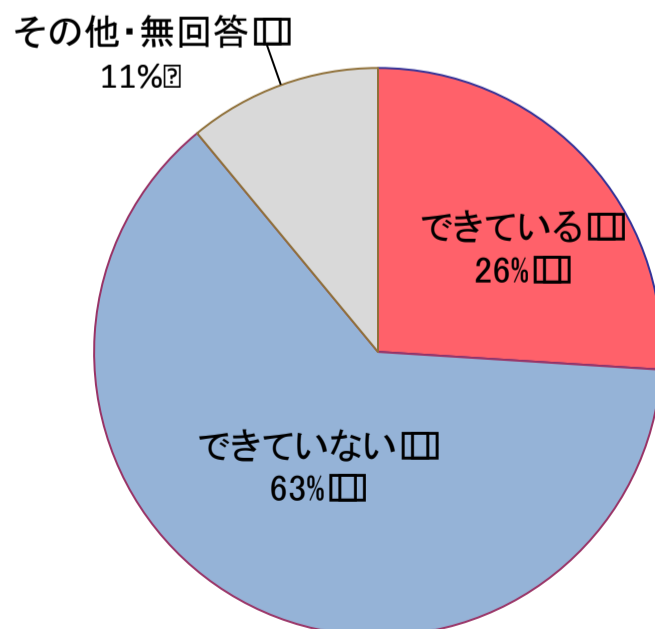


B&R 教育の質的転換が求められる背景

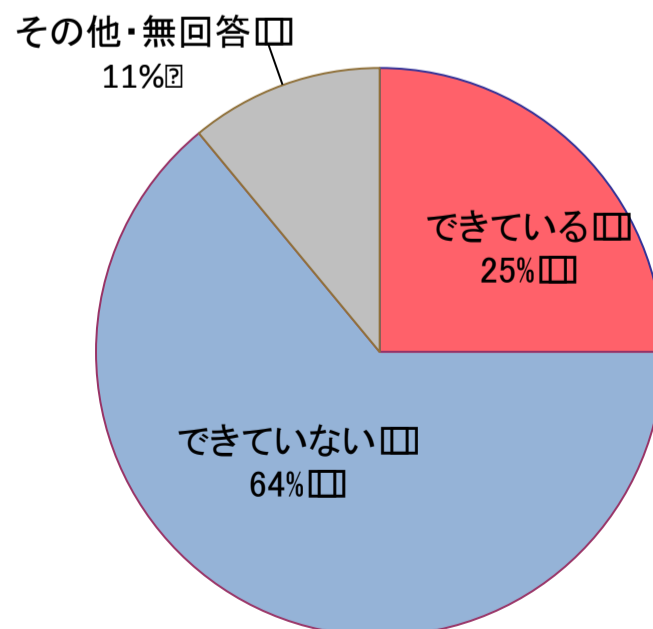


新聞社の世論調査では、日本の大学が、世界に通用する人材や企業、社会が求める人材を育てているかとの質問に6割を超える国民が否定的な回答

○ 世界に通用する人材を育てることができていると思うか



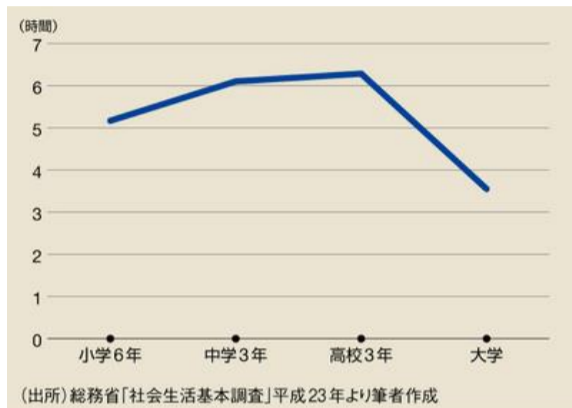
○ 企業や社会が求める人材を育てることができていると思うか





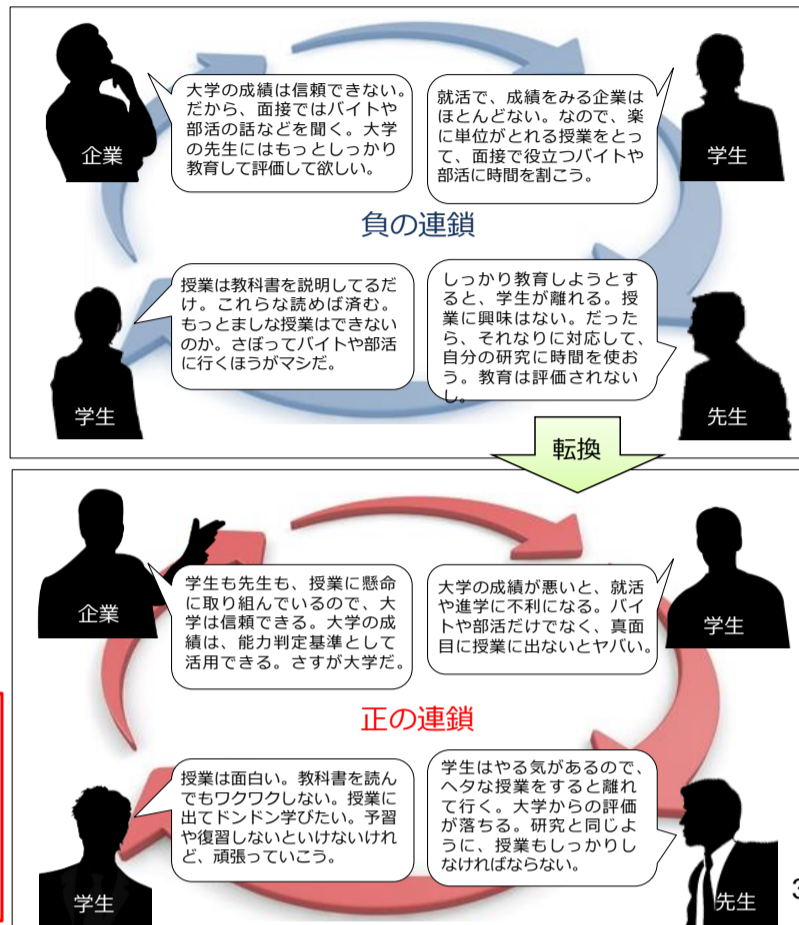
社会（企業）は、なぜ大学を信用しないか。

■学業（学校での授業、予習・復習、宿題などを含む）に使う時間（一日あたり）



授業とその評価（＝教育の質保証）が高くなると、社会（企業）は大学を信頼できるようになる。

今こそ、**本当に強い大学へ**



- ▷ 平成10年 中教審答申 「21世紀の大学像と今後の改革方策について」
- ▷ 平成12年 中教審答申 「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」
- ▷ 平成17年 中教審答申 「我が国の高等教育の将来像」
- ▷ 平成20年 中教審答申 「学士課程教育の構築に向けて」
- ▷ 平成24年 中教審答申 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」
- ▷ 平成26年 中教審答申 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」

高等教育は変わったか？

「21世紀の大学像と今後の改革方策について」

【現状の問題点と課題】

- 教員の教育活動に対する責任意識が不十分
- 一方通行型の講義
- 授業時間外の学習指導を行っていない
- 学期末試験のみによる成績評価
- 安易な進級・卒業認定
- 教養教育の軽視
- 狭い領域に限定した専門教育
- 学生の受動的な学習態度
- 学生の自主学習時間の決定的不足

大学審議会（1998）
「21世紀の大学像と今後の改革方策について
—競争的環境の中で個性が輝く大学—」

- 自己点検・評価の実施・公表を義務化
- 第三者評価の導入と資源配分への利用可能性
- 大学団体、学協会、大学基準協会等に期待
- 透明性の高い第三者評価を行うとともに、大学評価情報の収集提供、評価の有効性等の調査研究を推進するための第三者機関を設置する必要

【改革の方向性】

- 自律性に基づく大学の多様化・個性化
- 組織的・体系的な教育改革への取組み
- 知識の量だけでなく、意欲・熱意等の多様な個性や能力を評価する入試
- 主体的に学び、考え、総合的に判断する能力の育成
- 教育方法の改善、課外学習に関する指導、単位の実質化
- 卒業時の質保証（高い付加価値をつける社会的責任）
- 国際的通用性・共通性の向上

5

◆ グローバル化、ボーダレス化

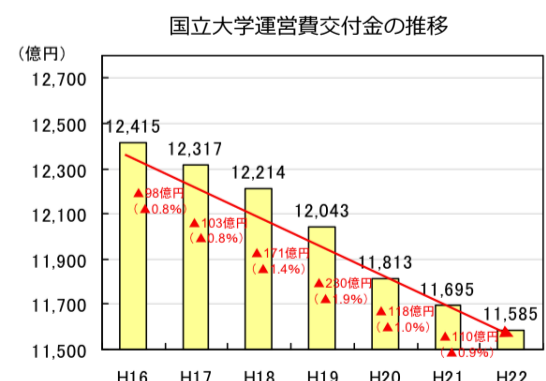
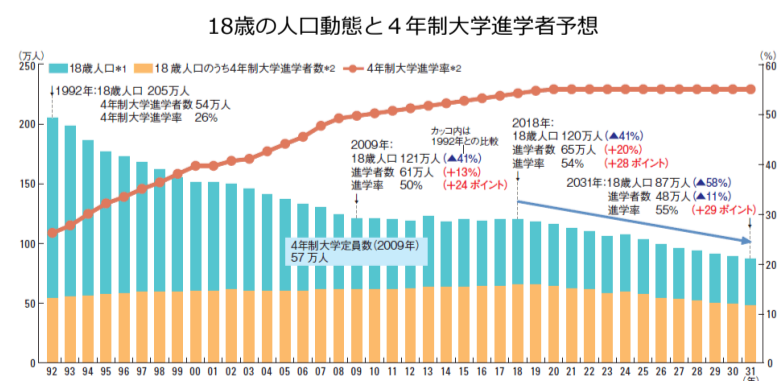
国際的な競争へ

◆ ITの進展：ネットによる無料講義配信


どこでも、誰でも、無料で、超一流講義（施設不要）

◆ 人口減少

国内需要半減 支援資源の先細り



6


B&R 学生が直面する問題 

- ◆ **経済活動は衰退**

| | 就業者 | 平均所得 | 労働総収入 |
|-------|--------|-------|-------|
| 2015年 | 6274万人 | 355万円 | 223兆円 |
| 2025年 | 6091万人 | 341万円 | 208兆円 |
- ◆ **雇用形態の多様化**
 - ・ 非正規雇用の増大

人材の“プロ化”
働き方の“多様化”
- ◆ **中途異動の一般化**
 - ・ 売れるものがなければ失業
 - ・ 自立的キャリア形成の必要性

自分で生きる力を！

B&R なぜ教育改革が進まないか？ 

教員の意識

- ❖ 責任感、焦燥感の不足
- ❖ 育成人材像についての現実感の欠如
- ❖ 当事者意識の欠如 “誰かがやる”
- ❖ 惰性、先送り
- ❖ どうしていいかわからない
- ❖ 研究やその他のことに注力

教育実施体制

- ❖ “決められない全学委員会”
部局代表委員間での協議
- ❖ 部局の利益・既得権を守る

改革の取組の限局性

- ❖ 少人数学生が対象
- ❖ 一部の教員が推進
- ❖ 取組みを取り上げない

解決策

- 全学的な取組の重視・優先
- やらざるを得ない仕掛け
- 教育改革先導組織の設置
- トップダウン、ボトムアップの適切な組み合わせ

8

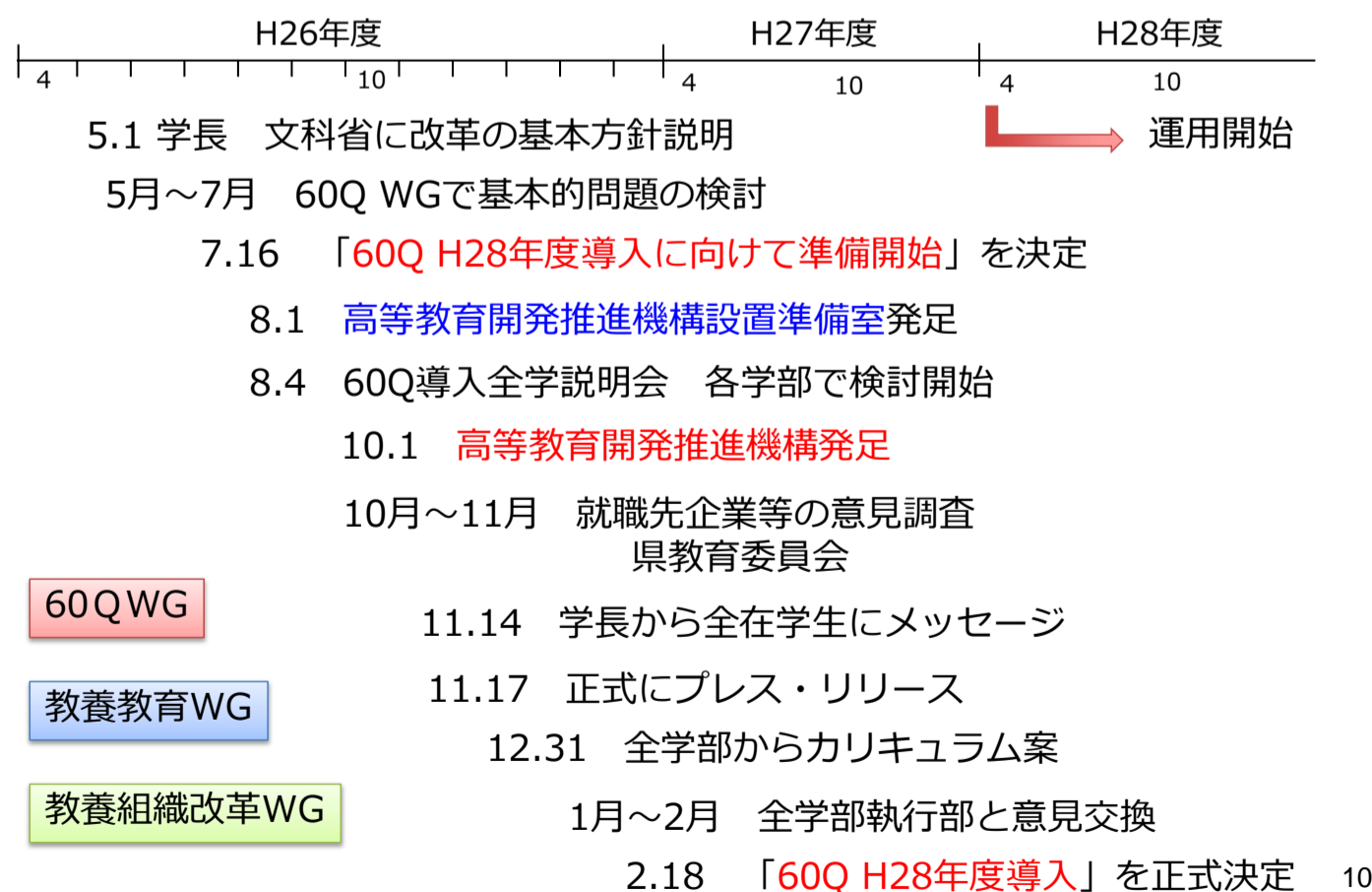
1. アウトカムに重点をおく教育の推進

- 全学60分授業の導入
- クォーター制の導入
- アクティブ・ラーニングの推進
- ナンバリングの導入
- Q-cumシステム

2. 教育の組織・体制改革

- ❖ 教育組織改革
- ❖ 実践型社会連携教育プログラム
- ❖ グローバル人材育成特別コース
- ❖ グローバルディスカバリーコース
- ❖ 医工連携大学院構想
- ❖ 学部研究科改組・教員再配置

9



10

B&R

全学60分授業・4学期制

まず見えるもの

単位の実質化

しかしそれだけではなかった

1. 集中力の持続

2. 参加型授業の導入

3. 単位基準（大学設置基準）

初国立大脱

現状、 90分 / コマ（1.5時間）×15週=22.5時間の授業→2単位

1単位の基準（大学設置基準） 45時間の学習
講義・演習は15～30時間の授業+予習・復習

正常化 60分 / コマ（1時間）×15週=15時間の授業⇒1単位

11.25時間 実質化 15時間 同じ単位なら、コマ数2倍必要

Point! ~単位実質化の実現こそが教育改革の1丁目1番地!~

- ❖ 授業時間：25コマ→35コマ（プラスα） / 週土曜開講もあり Mon~Sat
→自学自修を怠ると習得できない環境が完成される。（受講科目数と展開の早さ（60分））
- ❖ 科目のスリム化：重複授業や寡少ニーズ授業の削減
→整理後に残る又は新たに作られる各科目の教育目的（DPとの関係）が明確に浮き出る。
- ❖ 教育の体系化・組織化への抜本的見直し
→入学から卒業までの体系的な授業構成、社会が求める教育内容への挑戦へと原点から再整備される。
- ❖ 教職員の再配置の改革
→教職員の勤務体系・勤務条件の見直しと大学の教育全体を企画調整し、全学を支える新組織の存在が不可欠。

真の「(大学)教育実質化」を始める。

| 時限 | 開始 ~ 終了 | 月~金 | 土 |
|----------|---------------|-----|---|
| 1 | 8:40 ~ 9:40 | | |
| 2 | 9:50 ~ 10:50 | | |
| 3 | 11:00 ~ 12:00 | | |
| 昼休み(50分) | | | |
| 4 | 12:50 ~ 13:50 | | |
| 5 | 14:00 ~ 15:00 | | |
| 6 | 15:10 ~ 16:10 | | |
| 7 | 16:20 ~ 17:20 | | |
| 8 | 17:30 ~ 18:30 | | |

基本7限授業、8限は運用枠
土曜も運用枠に組み込む

B&R

「60分授業」に対する批判、疑問

課題非解決・全面依存型

- 成功するという保証はあるのか？
- 志願倍率が下がったらどうしてくれる！
- 科目数が減ると就職に不利
- 労働強化だ。もしやるなら昇給を！
- 学生のバイトが減り生活が困難になる
- 学生の自主学習を増やす方向と反対
- 学生の自主学習時間が確保できない

正当な課題提起型

- 学年進行をどうする。既に約束した
- 自修時間が確保できるか？
- 一般学生の教員免許取得が困難に
- 資格試験の受験要件に適合するか？

水掛け論・先送り型

- 時間をかけて慎重に検討すべきだ
- 90分授業でも改革はできる
- 75分、50分、120分がよい
- 90分、5時限より60分、7時限では実質勉強時間が減る

対応

- 正当な理由があれば、学生便覧の途中変更は可能
- 自修時間は説明可能な範囲に
- 学内で就業の機会を増やす（SA制）
- 地元企業の意見調査
- 教員免許用科目の優先設定
- 資格試験受験要件の精査

B&R 「60分授業」に対する批判、疑問



組合だより：2014年7月～2015年7月まで8回に渡って取り上げる
第177号、178号、180号、181号、アンケート特集号、187号、189号、190号

B&R 60分授業のメリット・デメリット



メリット

- 学生の集中力を維持しやすい。
- コマごとの到達目標を設定し、進度が確認しやすい。
- 間延びした授業にならなくて良い。
- 細かい割振りが可能で、授業の狙いと内容に合わせて種々の形式の授業を行える。
- コマ数を増やして、授業内での学びの時間を確保できる。
- 高校時と変わらない為、学生にとまどいが少ない。

デメリット

- 1コマでの授業内容で説明が不十分になるケースがある。
- 全体の教員コマ数が増加して、空き時間が取りにくい。
- 実習時間としては短いので、実習は2コマ単位で実施する必要がある。
- 長時間を要する試験や実習が組み立て難い。

メリット

- ❖ 8週で完結できる。集中した授業が可能。
- ❖ 短期集中授業により、学生の日々の履修科目数を少なくし、メリハリを持たせる。
- ❖ 1期中に学ぶ科目が減るため、学生の学習効率・効果を高める事が期待できる。
- ❖ 積み上げ式で学びやすいカリキュラムが組める。
- ❖ 多様な授業を受けられる。
- ❖ 1学期分を短期留学等の活動に充てることができる。
- ❖ 一回のテストでのテストの個数が減るため効果的に習得できる。
- ❖ 細かな評価ができる。
- ❖ 海外とのカリキュラム互換が取りやすい。

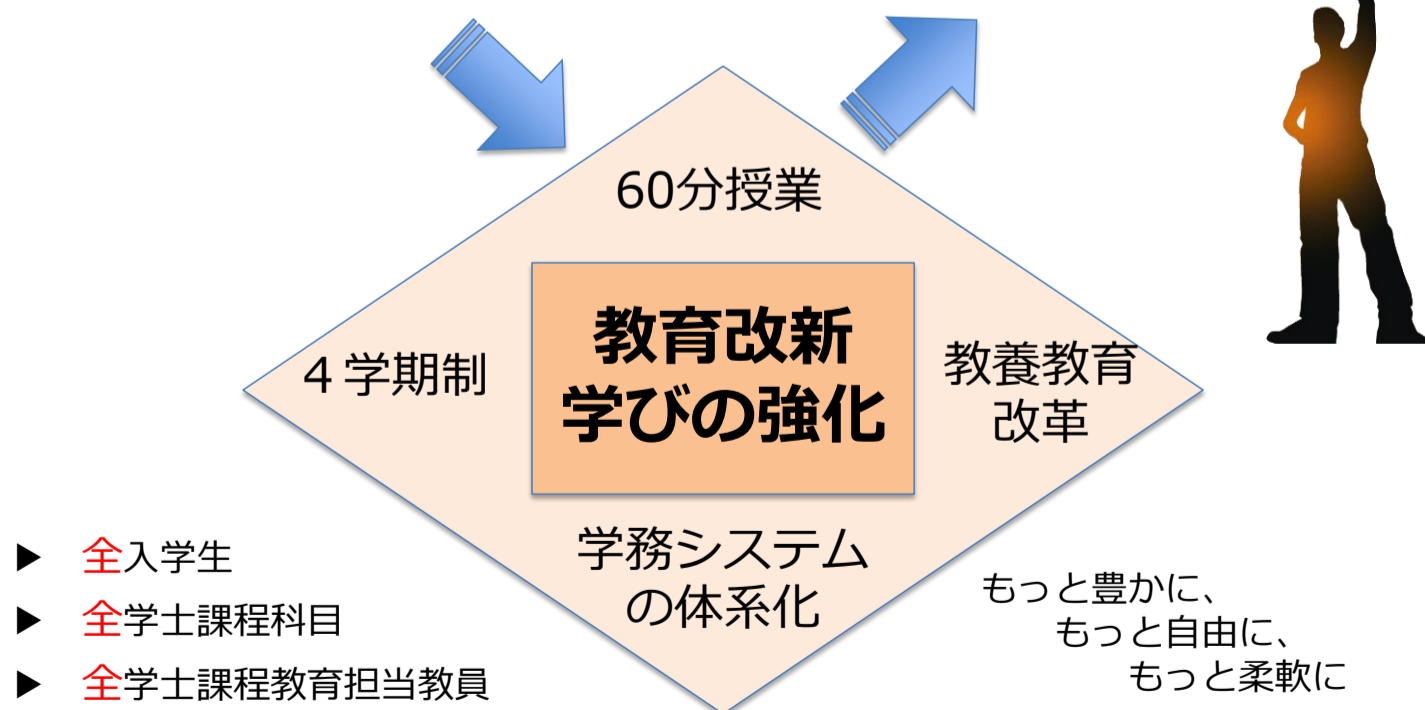
デメリット

- じっくりと時間をかけることで学習効果が高くなる授業には適さない。
- 授業がタイトなため、落第者が増える可能性がある。
- 試験回数が増える。
- 事務作業が煩雑になる。

17

教職員全員が参画する
徹底した改革

鍛え抜かれた
学生を送り出す



科目見直しについて

- ❖ 全科目（5,178科目）の総点検（総棚おろし）
慣例で設定してきた科目をすべて見直し、ディプロマポリシーの達成に向けた科目体系へ
- ❖ 必修科目を配置しないクォーターをつくり（可能なら）、学生が休業期間を含めて長期留学できるように設定

授業方法等について

- ❖ 教員が何を教えたか（COVER）、ではなく、学生が何を発見できたか(DISCOVER)、へ転換
- ❖ 従来の一方向性の講義を改め、アクティブラーニングを導入
課題解決型学習（PBL）、チーム基盤型学習（TBL）、クリッカー導入、など
- ❖ 学生に予習・復習を課す（Web classの活用、eLearning使用など）



単位設定について

- 卒業要件単位は設置基準に定める加減まで変更自由。
- 1単位（＝45時間の学習）の考え方は以下の通り。
講義・演習の1単位：60分授業 x 15～30回（予習復習30時間～15時間）
実験・実習の1単位：30～45時間 x 15回
- 設定する単位：2単位（旧）→1単位（新）など柔軟に対応可。少数1桁単位まで設定可。
- 複数の先生が1つの科目を受け持つこと（オムニバス方式）も可能。



19

「教養教育の基本方針」策定（2014年10月）

◆教養教育の重要性の再確認

教養教育（リベラル・アーツ）の再定義

幅広い豊かな知性と感性、新たなパラダイム転換を志向する創造的で自由な発想力を持ち、自らの知的拠り所を探求しつつ、現代の社会と自然の全体へ、バランスの取れた寛容な社会倫理をもって、実践的に働きかける知性を育成する教育

◆改革の要点

科目の総点検・再編成

- ▶ クロス履修による幅広い教養
- ▶ 高年次教養教育導入による専門とリンクした教養
- ▶ 社会連携・実践型教養教育によるグローバル実践人の育成
- ▶ 語学教育の充実
- ▶ 感性知、芸術知の涵養
- ▶ 汎用的技能教育の強化

B&R 教養教育改革 岡山大学 OKAYAMA UNIV.

1～2年次は、週2日を教養教育とする（全学）

平成27年度

教養教育科目は、
月曜～金曜の
各時間帯に開講

➔

平成28年度～

教養教育科目の開講曜日
分離
専門教育科目の開講曜日

学年ごとの教養教育と専門教育の開講曜日

1年生

教養：月・木曜日
専門：火・水・金曜日

2年生

教養：火・金曜日
専門：月・水・木曜日

平成28年度に2年生になると、こちらの開講曜日が基本となります。
講義科目によっては1年生に開講されているものも2年次で受講できます。

21

B&R 60分授業・4学期制の周知ポスター 岡山大学 OKAYAMA UNIV.

教職員・在学生に周知のため、職員・学生の集う場所に設置

22

新しい学びの場がみなさんを待っています！

60分授業・4学期(クォーター)制を活用して 学びをより確かなものに！

一人ひとりで、そして仲間同士で学ぶ

自宅でも



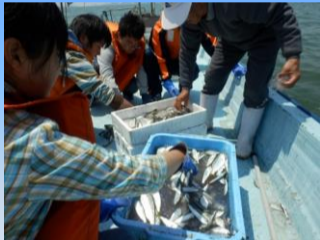
大学でも

授業(教室の中)でも



学びを充実させます

さらに、地域社会で実践的に学ぶ
実社会の課題に主体的に取り組むことができます



環境学習としての漁業体験



地域住民の方とまちづくり会議



市民の方へ聞き取り調査



森林体験学習

新しい学びの場がみなさんを待っています！

60分授業・4学期(クォーター)制を活用すれば 学びが広がる！

海外留学ができる！

海外留学での異文化との出会いは、
知識や視野を広げます！



留学先の大学生たちと
交流

インターンシップや
ボランティアも...

就業体験やボランティア活動も豊かな
経験につながります！



海外インターンシップ
ベトナムで工場体験



地域清掃ボランティア

社会はいまの大学生に何を求めている？

知を集め、確かめ、築き、活かし、創り出せる大学生に！



だから

岡山大学高等教育開発推進機構「大学教育の在り方及び岡山大学の教育改革の意見を求める企業アンケート」
(平成26年10月実施)

岡山大学は平成28年度より
60分授業・4学期(クォーター)制をスタートします！

25

60分授業のメリットは？

1) 授業に集中して取り組むことができます！ 60分授業をベースにした単位
1コマ60分が集中力をより一層持続させます

60分/コマ×15回→1単位

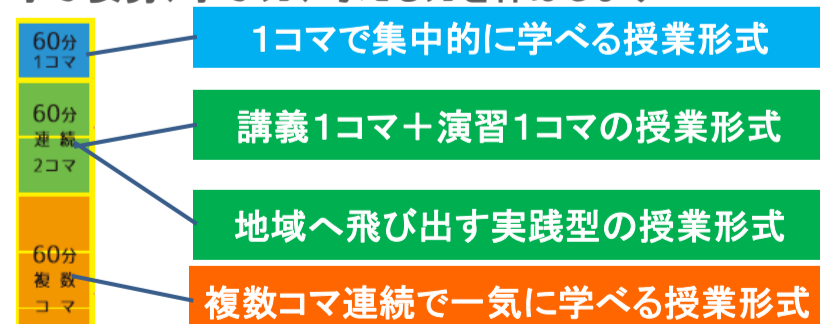
※60分/コマ×30回→2単位

2) 学ぶ時間をしっかり確保できます！
授業での学修時間はこれまでの約1.3倍になります

平成28年度からのタイムテーブル

3) 授業のねらいと内容に合わせた
いろいろな形式の授業を受講できます！

学ぶ姿勢、学ぶ力、考える力を伸ばします



| 時限 | 開始時間 | ～ | 終了時間 |
|----------|-------|---|-------|
| 1 | 8:40 | ～ | 9:40 |
| 2 | 9:50 | ～ | 10:50 |
| 3 | 11:00 | ～ | 12:00 |
| 昼休み(50分) | | | |
| 4 | 12:50 | ～ | 13:50 |
| 5 | 14:00 | ～ | 15:00 |
| 6 | 15:10 | ～ | 16:10 |
| 7 | 16:20 | ～ | 17:20 |
| 8 | 17:30 | ～ | 18:30 |

26

4学期(クォーター)制のメリットは？



1年間を4学期に分けると…

短期間で集中的に学ぶことができます。
1Q+α期間で多様な学外活動にチャレンジできます。



挑戦しやすくなる学外活動の例

2か月以上の
留学

インターン
シップ

ボランティア
課外活動

※ただし、法学部夜間主コースと経済学部夜間主コースを除きます。

27

60分授業・4学期(クォーター)制を活用しましょう 一年間計画を立てて充実した1年を—

平成28年度 年間授業日程



休業期間を活用して、
留学やインターンシップ、
ボランティアなどの計画
も立てておきましょう！

| Q・月 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | Q・月 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|---------|----|----|----|----|----|----|----|
| 第1 Q | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 第3 Q | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 第2 Q | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 第4 Q | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | 27 | 28 | 29 | 30 | | | |
| 第3 Q | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 第1 Q | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | | | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 第4 Q | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 第2 Q | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 夏季休業 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 春季休業 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 第1 Q | 28 | 29 | 30 | 31 | | | | 第3 Q | 26 | 27 | 28 | | | | |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 第2 Q | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | 第4 Q | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | | | | | | | | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| | | | | | | | | | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | | | | | | | | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |



各学期の成績評価で、
こまめに学びの成果を
確かめておきましょう！ 28

※土曜日に補講が行われることがあります。

シンポジウムテーマ：「新しいプラットフォームによる教育の可能性」

岡山大学FD・SD研修会資料
2015.9.10

60分授業・クォーター制による 教育改新



改革の目的

大学全体の授業改善、カリキュラムの見直しによる大学教育の質的改善
→教育の実質化
→単位制度を見直し、大学間の単位互換や厳格な学位審査に対応

「60Q制を実質化する（単なる看板のかけ替えに終わらない）ためには、各講義等が現状より充実することが必要」 — 60Qについての皆さんの意見より

29

国立大学改革強化推進補助金（H26-31年）

岡山大学FD・SD研修会資料
2015.9.10

平成26年度：講義室・実験室整備の整備、学務支援システム整備
平成27年度：カリキュラム開発経費

カリキュラムのブラッシュアップ
個々の科目の内容・方法の総点検

- ▶ Active Learning
- ▶ 反転授業
- ▶ 実践型社会連携

魂を入れる作業

カリキュラム開発経費の申請件数： **202**



部局申請：40件、グループ申請：91件、個人申請：71件

全400件の部局応募の中から優れた取組を紹介

- ▶ 文学部の取組み 60分授業・4学期(クォーター)制による授業効果最大化への試み
- ▶ 教育学部の取組み 組織的アクティブ・ラーニング推進授業開発プロジェクト
- ▶ 環境理工学部の取組み 科目のモジュール化による課題解決型教育システムの再構
- ▶ 学生から見た60分授業・4学期(クォーター)制 問題点とこれからの展望

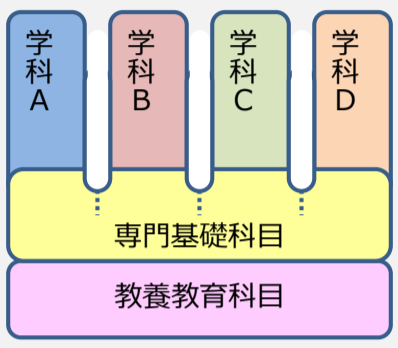
グループ、個人申請のよい取組をフロアにポスター展示

30

B&R 環境理工学部：教育システムの再構築

現在

【現行のカリキュラム】
専門基礎科目は、本来、分野横断型で設計されていたが、実態は縦割りに近い。



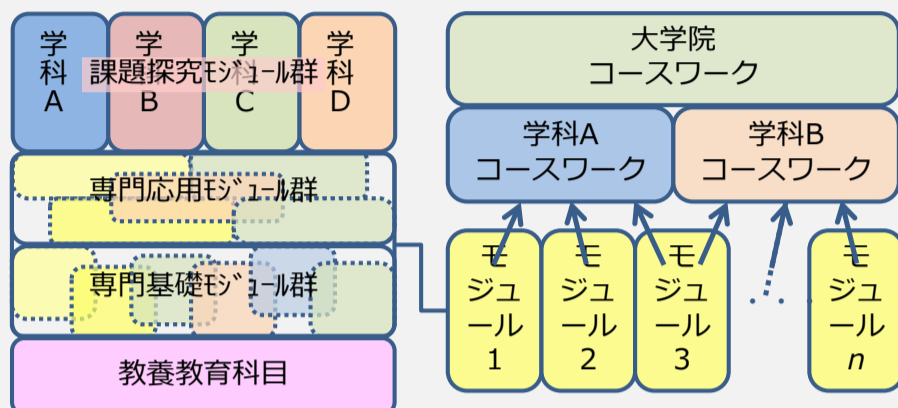
低い選択の自由度

どこかを抜くと、全体が崩れる

モジュール科目の導入

【モジュール科目の導入によるカリキュラムの再構築】

- 縦方向だけではなく、横方向もつなげる。
- 将来的には専門科目もモジュール化し、異分野融合型の協働研究への意識を高め、大学院への進学を促す。



高い選択の自由度


角が欠けたぐらいなら大丈夫

【コースワークの構築】

- モジュール化した課題科目を体系的に履修するコースワークを学部教育段階で構築し、専門分野の基礎的素養の涵養を図る。
- 高年次や大学院における高度な専門教育へ組織的に展開

31

B&R ティーチング・スタイルの確認



岡山大学 高等教育開発推進機構
Education Initiative

岡山大学の教育改革 「学びの強化」について(学長メッセージ) 「60分授業・クォーター制」について 教育改革実践の紹介

学内限定

内部資料等

ティーチング・スタイル・チェックシートの御案内

ティーチング・スタイル・チェックシート(検討中資料)

授業にはいろんなスタイルがあります。岡山大学ではアクティブラーニングの導入を進めるにあたり、皆様の授業スタイルがどのようなものかを振り返るチェックシートを作成しました。ご自身の授業内容・方法を振り返っていただく資料としてご利用ください。

日本語版・記入例

ティーチング・スタイル・チェックシート(日本語版)

英語版・記入例

記入例

岡山大学高等教育開発推進機構

ティーチング・スタイル チェックシート (検討中資料)

授業科目名[] 授業形態[講義・演習・実習] 学生数[名] 開講コマ数[コマ]

授業の進め方・指導の仕方は、授業の目的や到達目標に即して決まります。まずは、担当している各授業の「ティーチング・スタイル」をチェックしてみましょう。下記4カテゴリーの各事項を授業で充分に行っていますか？「充分に行っている」5点～「全くしていない」0点として自己採点してみてください。そしてその結果が当該授業の目的/目標に照らして最適なものになっているかどうか振り返ってみてください。

【学習の協働性】
協働する授業形態を取り入れていますか。

- 隣の人と簡単な意見交換やペア・ワークをさせる。
- グループ・ディスカッションやロールプレイをさせる。
- 異なる考えとの簡単な意見交換や、ディベートをさせる。
- プレゼンテーション(質疑応答を含む)やポスター発表をさせる。
- プロジェクト・ワークをさせる。

| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 5 | × | 2 | = | 10 |
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 2 | × | 2 | = | 4 |
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 小計 | | | | 32 / 50点 |

【学生との対話】
学生に問いかけたり、語りかけたりしていますか。

- 学生の顔を一人一人見て、話をさせる。
- 少なくとも15分に1度は、学生に問いかける/語りかける。
- 学生の理解度を確認しながら進む。
- 学生が質問しやすい雰囲気を作り出して、質問を促す。
- 適宜、学生の意見、解決法、考え、感想などを尋ねる。
- 学生の発言になぜそう考えるのか根拠を尋ねる。

| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 5 | × | 1 | = | 5 |
| 5 | × | 1 | = | 5 |
| 5 | × | 1 | = | 5 |
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 5 | × | 2 | = | 10 |
| 5 | × | 3 | = | 15 |
| 小計 | | | | 46 / 50点 |

【思考・理解促進】
学生に、理解を深める機会・考える機会を与えていますか。

- 「わかったこと」を隣の人と話し合ったりして理解の確認をさせる。
- 自分の意見をまとめさせる。
- 異なる意見に対して、同意できる点と同意できない点を見つけさせる。
- クリティカル(検証的)に考えさせる。
- 問いを立てさせる。
- 自分の「学び」について「振り返り」をさせる。

| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 3 | × | 1 | = | 3 |
| 5 | × | 1 | = | 5 |
| 3 | × | 1 | = | 3 |
| 1 | × | 3 | = | 3 |
| 1 | × | 3 | = | 3 |
| 1 | × | 1 | = | 1 |
| 小計 | | | | 18 / 50点 |

【活性化の工夫】
教具・教材・教室に関して、授業を活性化する工夫をしていますか。

- ハンドアウト、映像やPowerpointなどを使って記憶に残る工夫をする。
- クリッカーやタブレットなどを活用し、双方向の授業になる工夫をする。
- 学習管理システム(WebClassなど)を活用する。
- ゲストを呼んで、質疑応答を行う。
- Teaching Assistant、Student Assistant、ボランティアの人などの支援を活用する。
- 図書館のラーニング・コモンズやL-caféなどグループ活動のしやすい場所を使う。

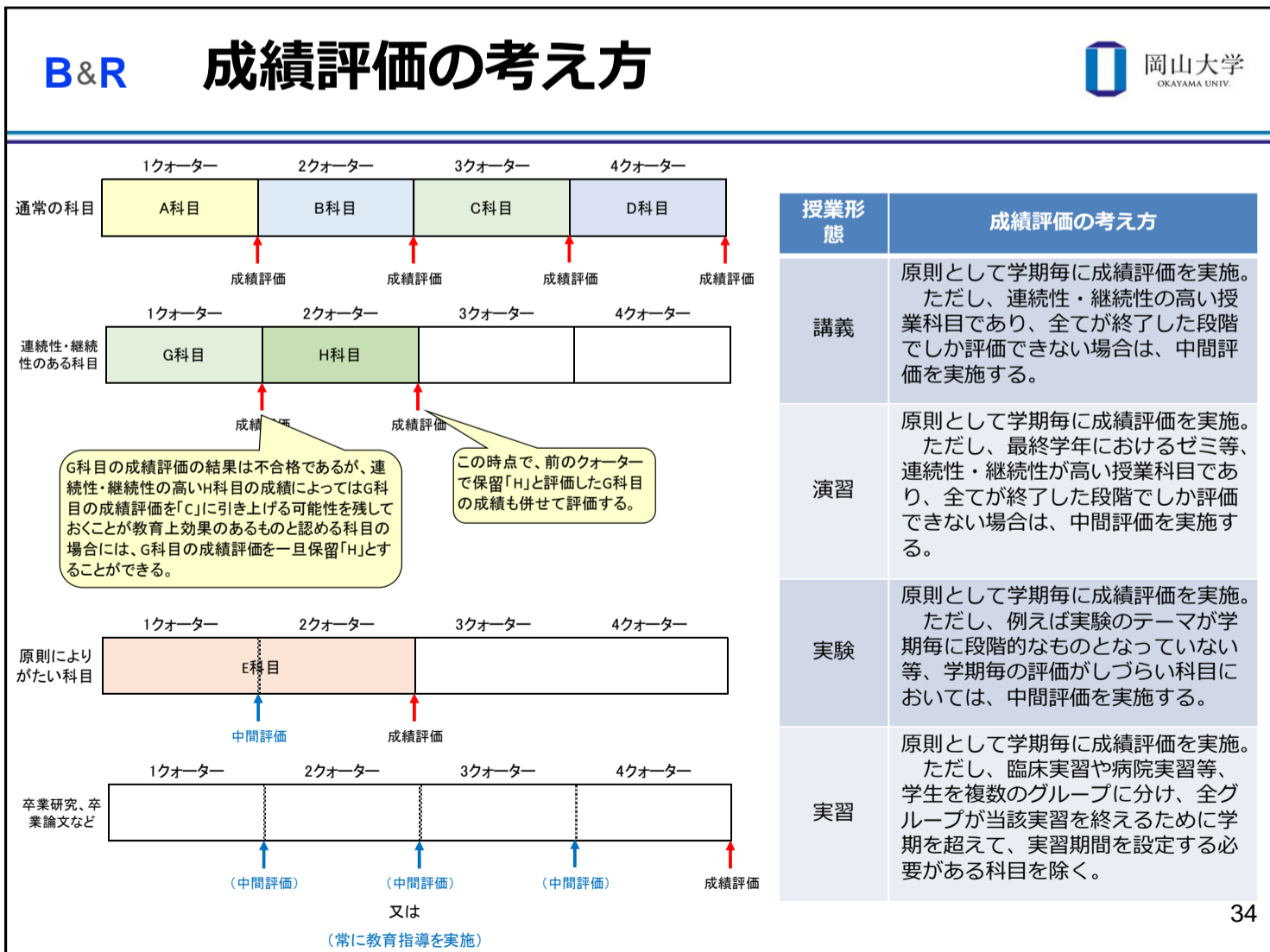
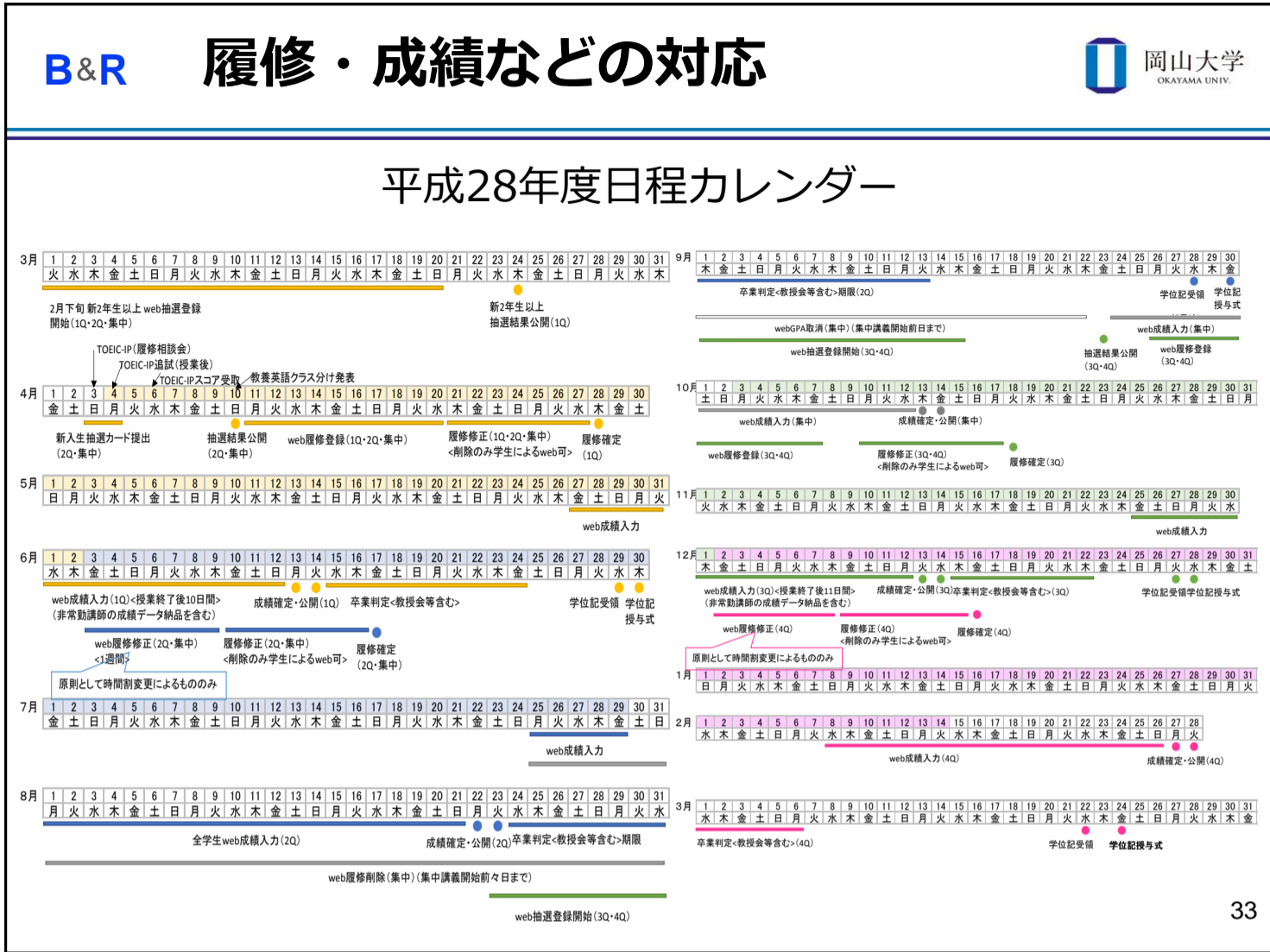
| | | | | |
|----|---|---|---|----------|
| 5 | × | 2 | = | 10 |
| 1 | × | 2 | = | 2 |
| 3 | × | 1 | = | 3 |
| 2 | × | 1 | = | 2 |
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 3 | × | 2 | = | 6 |
| 小計 | | | | 23 / 50点 |

お疲れさまでした！

合計 119 / 200点 **32**

| | |
|---------|----|
| 学習の協働性 | 32 |
| 学生との対話 | 46 |
| 思考・理解促進 | 18 |
| 活性化の工夫 | 23 |

24



B&R

岡山大学の教育改革

 岡山大学
OKAYAMA UNIV.

将来、世界の実践の場で適切な判断をし、イノベーションを起こす「実践人」を育てるため、

教養、語学、専門を知識として持つだけでなく、異分野、異社会、異文化の中で試す機会を与えたい。

そのために、国際的に通用する学修環境、教育体制をつくる。



岡山大学長

森田 潔 35

 TOP GLOBAL
UNIVERSITY
JAPAN

B&R

教育改革がめざす人材像

 岡山大学
OKAYAMA UNIV.

3×3 教育プログラム



実践人

実践の現場で適切な判断をし、イノベーションを起こす



実践人

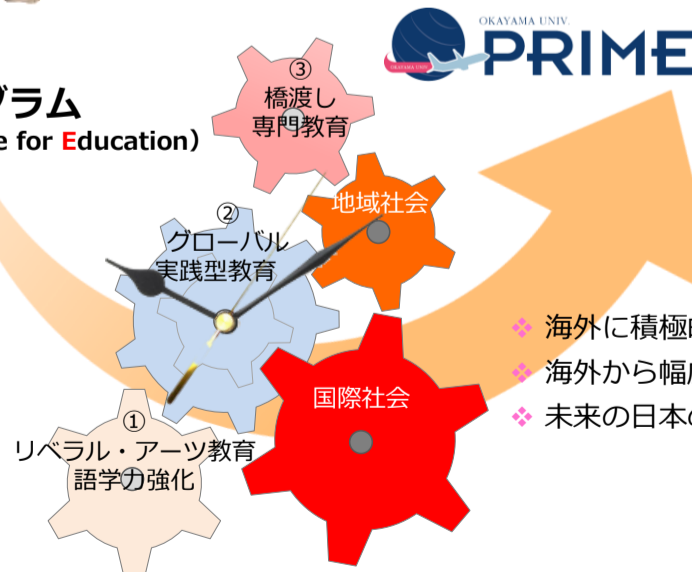
PRIMEプログラム

(PRactical Interactive Mode for Education)

①グローバルに通用するリベラル・アーツ教育と自分の考えを英語で語れる語学力強化

②グローバルな現場で通用する実践知を涵養する教育

③基盤知識・行動をベースとした国際社会に繋がる橋渡し専門教育



- 海外に積極的に送り出す
- 海外から幅広い多様な人財を呼び込む
- 未来の日本の担い手に投資する

 TOP GLOBAL
UNIVERSITY
JAPAN

36